

第1回新塩尻市立平出博物館基本計画策定委員会議事概要

- (1) 日時：令和3年11月22日（月）午後2時～4時
- (2) 場所：塩尻総合文化センター2階大会議室
- (3) 出席者 委員 11名（1名欠席）、市長、生涯学習部長、事務局
- (4) 議事内容
 - ①委嘱書交付
 - ②市長あいさつ
 - ③委員自己紹介
 - ④委員長、副委員長の選出
委員長に笹本正治委員、副委員長に梅干野成央委員を選出
 - ⑤新塩尻市立平出博物館基本計画策定委員会設置要綱について
設置要綱の条項等を確認
 - ⑥基本計画について
基本計画の事業ステップにおける位置づけ、委員会検討事項の主旨や検討項目について事務局から説明
 - ⑦基本計画の内容について
基本計画案を事務局より説明

【議題・主な意見等】

<平出遺跡、中山道、市全体の歴史>

まとめ

- ・新平出博物館方向性は引き続き検討。
 - ①「平出遺跡」「街道文化」「塩尻の歴史」と3つのテーマ立てとするのか、②塩尻市全体の歴史・民俗が対象か、③遺跡のための博物館か、方向性はひきつづき検討する。

委員の意見

- ・平出遺跡が核になることは間違いなく、場所的な特徴として街道との関わりがあった。過去も未来も人との交わりの中で、街道は常に取り上げていく必要がある。
- ・塩尻市の歴史部門が肥大化すると、平出遺跡がかすんでしまうので、バランスの検討が必要である。

<理念・コンセプトについて>

まとめ

- ・基本構想で掲げていた、「過去に学び未来へつなぐ」を基本理念として、コンセプトは再考した方がよい。未来の5000年を市民がイメージしづらい可能性がある。
- ・手法については基本理念をベースに市民公募で標語を求めることも考えられる。

委員の意見

- ・塩尻らしさは、展示を考え博物館を運営していく上で重要。
- ・10000年ミュージアムを削除した時に、塩尻らしさを表す言葉が何かは検討していかなければならない。単にコンセプトを取ればよいという話ではない。
- ・実績（過去）の5000年と未来の5000年で10000年というのはインパクトがあって良いが、市民目線では、未来の5000年が我々の創造できる範疇を超えた地球規模の事柄の印象を受けた。
- ・「5000年の実績は最も強力な塩尻らしさ」ということは留めておくべき。

<利用者について>

まとめ

- ・基本構想で整理した「みんなの」博物館を念頭に整備する。一番来館していない子育て世代を呼び込むためにも子どもが来館・リピートしてくれる仕組みづくりが重要。カフェのような、居場所となるスペースも検討した方が良い。
- ・子どもや熟年層も包括するためには、段階的な整備などステップを検討した方が良い。

委員の意見

- ・他所の博物館と圧倒的に違うのは、観光を全面的に出さず、市民のための博物館にしようということ。今回の資料はその方向性の上の資料と認識。
- ・普段使い、日常的に市民が訪れるしかけやすさが重要。
- ・実情は、博物館に来ている世代で最も多いのは年配世代。一番来館していないのは子育て世代。親が来やすいことで子どもたちも来てくれるような仕掛けを作るべき。
- ・展示をする側は専門的に捉え、難しくなりがち。「子どもにわかるような博物館する」ということを掲げれば、作る側の意識も変わってくるのではないか。
- ・ガイダンス棟や学校との連携はやった方が良い。
- ・「子ども向け」の機能を整備することは、段階的な方が良いと考える。各国の歴史系の博物館では後から子ども向けを付加している傾向にある。まずは既存の平出博物館改築でベースとなる博物館を整備して、その後に子ども向けの機能の充実を図ることもある。
- ・平出博物館の構想・基本計画を考える上では、一旦は「みんなの」というコンセプトで整備。次のステップで「子ども向け」、熟年層向けを整備するか等、順にステップを進めていくべき。必要なことを段階的に考えていけばよい。
- ・親子連れがリピーターになる為にはカフェ等が必要と考える。リピーターを増やすには、いろんな世代や立場の人々に来られるよう「みんなの」という表現で検討。

<広報について>

- ・若い人たちへのアプローチとして SNS は検討すべき。特に周遊には SNS を活用すべき。
- ・最終的には資料があつての施設であり、実物の魅力やそれを伝える人を育てていくことが大事である。これらは項目に追加した方が良い。

<市民参画>

- ・市民参画は非常に重要。「市民が主体的に参画する仕組みづくり」について、地域住民の活動も地域と結びついた一つの財産であり、今後いかに発展させられるかが施設をつくることと同等に重要。資料の中に仕組みづくりの工程も記載したほうがよい。

<基幹博物館、連携>

まとめ

- ・「わざわざ」博物館にいくといった特別感がない博物館とするため、いろいろな連携を想定していく必要がある。基本計画時点から間口は広く、イメージを膨らませて発展性を考えておくとよい。

参考意見 連携先について

- ・ひらいで遺跡まつりにワインとの連携。
- ・土器で煮るなどのイベントは重要である。
- ・博物館・歴史・遺跡・考古学などとは関係ないところとも連携していけるとよい。
- ・塩尻市内でいちばんの社会学習施設である図書館や、長野県で多い公民館との連携。
- ・芸術家の方の発表の場、歴史との連携、タイアップは注目されている。
- ・長岡造形大では試験的にアート・技術などのコンテンツを導入し、市民の活動との連携ができるか行っている。いろいろやってみようという意識が、日常的に訪れる場となるための仕組みづくりとなる。
- ・連携する産業が考えられる余白も残した方がよい。
- ・歴史系博物館で成功している共通点は、ミニイベントの数が多いこと。小さなイベントを細かく継続的に行っている。これは博物館だけでやるのは難しいので。地元の皆さんや、歴史・考古とは関係ない人たちが多く参画すること、企画できる人材が博物館に必要となる。

参考意見 位置付けについて

- ・他の博物館施設や観光地との連携は述べなければならない重要事項ではあるが、現実的には難しいことは理解している。いざという時に繋がれる程度が現実的。
- ・市としての文化構想の構成要素として、歴史文化・芸術・産業・民俗・街並みといった、市の文化構想の枠組みを明確にして、他の施設をサテライト的位置づけにする方がよい。
- ・基幹博物館としながら全体がどうやったらあがっていくのかを検討していかなければならない。
- ・我々の最終目標は博物館をとおり「市民の文化を上げる」ために、市民に塩尻の文化の素晴らしさを訴え、誇りを持ってもらい、塩尻により長く住みたいと思ってもらうこと。
- ・展示としては平出遺跡などがコアとなりうると考えられる。情報面でのコアミュージアムとして、さまざまな映像等のコンテンツの情報集約がされていると全体が納得できる形にできるのではないかな。

<その他計画>

まとめ

- ・平出遺跡の整備基本計画や遺跡に関連したこれまでの計画も示す必要がある。関連計画を示していきながら、博物館の位置づけを定めていく必要がある。
- ・基本構想の段階では入館料無料化を検討していた。
- ・公共施設にも経済的にまわる仕組みも必要となるので、入口は無料だが、体験については有料とするなど、今後の持続可能な施設づくりのための引き続き検討。
- ・博物館を作ることに限っては、教育委員会だけの問題ではなく、市全体として盛り上げ方を協議できるような体制を作らないといけない。みんなで協力するというをどこかに記載すべき。